

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
國會要覧 第六十九版	中島孝司	国政情報センター
國會議員要覧 令和二年十一月版	中島孝司	国政情報センター
逐条国会法 第6巻	昭和54年3月 衆議院事務局(編)	信山社
地方自治組織法制の変容と地方議会	駒林良則	法律文化社
自治体議員が知っておくべき政策財務の基礎知識 —予算・決算・監査を政策サイクルでとらえて財政にコミットできる議員になる—	江藤俊昭(編著) 新川達郎(編著)	第一法規
令和時代に求められるエリアマネジメントの役割 ～関西からの情報発信～	植松宏之(編著) 足立基浩 ほか	株式会社パレード
農の同時代史 —グローバル化・新基本法下の四半世紀	岸康彦	創森社
ソーシャル・ファシリテーション 「ともに社会をつくる関係」を育む技法	徳田太郎 鈴木まり子	北樹出版
まちづくり幻想 地域再生はなぜこれほど失敗するのか	木下斉	SBクリエイティブ
選挙はまちづくり わかりやすく・おもしろく 公開政策討論会条例ができるまで	松下啓一(編著) 田村太一 ほか	イマジン出版
オードリー・タン デジタルとAIの未来を語る	オードリー・タン	プレジデント社
現場が輝くデジタルトランスフォーメーション RPA×AIで日本を変える	長谷川康一	ダイヤモンド社
スポーツツーリズム入門	ジェームス・ハイアム トム・ヒンチ	晃洋書房
児童青年の発達と「性」の問題への理解と支援 自分らしく生きるために包括的支援モデルによる性教育の実践	小野善郎(監) ほか	福村出版

お気に入りの文房具

4月は入学の季節です。新入生の皆様ご入学おめでとうございます。学校生活が始まり、ワクワク、ドキドキしているのではないのでしょうか。

さて、入学といえば、いろいろな文房具を揃えたことだと思います。最近では、可愛いものや便利なものなどがたくさんありますが、私のお気に入りは昔ながらの万年筆です。私が愛用している万年筆は、インクの色が黒に近い青色のミッドナイトブルーという落ち着いた色で、気になることや好きな文章を書き留めるために使っています。

万年筆の歴史は古く、1884年(明治17年)にアメリカのウォーターマンが、毛細管現象を応用して現在の万年筆の礎を作りました。明治28年には、日本に初めて輸入され、その後、明治44年に日本製第一号が販売されています。以後、万年筆はペン先やインクなどの進化を重ね、昭和に入る頃には、入学や就職のお祝いの品としたり、また公的な筆記具として、条約の調印式で署名用として用いられるなど、重要な場面でも使われてきました。

一方、昭和24年にボールペンが日本で発売されるとその人気は一気に高まります。その影響を受け、万年筆の生産は、昭和32年をピークに少しずつ減少し、平成13年にはピーク時の約20分の1の生産量となってしまいました。

そんな苦境の中、最近の万年筆は、インクの色が100色に増えたり、1年間使用しなくてもインクが蒸発しないものなど、カジュアルに使えるもの、また逆に高級で重厚感のある一生ものを持ちたいという需要により、再び注目されているようです。

近年、スマートフォンやパソコンを使うことが増え、文字を書く機会が減ってきていますが、お気に入りの文房具を見つけて、新たな機会をつくってはどうか。



※参考資料: 国立歴史民俗博物館ホームページ、ゼブラ株式会社ホームページ、雑貨統計年報(経済産業省ホームページ)、日本筆記具工業会株式会社トンボ鉛筆ホームページ